

高校再編関連 江津市ホームページ掲載内容

平成27年1月、市内の高校生にとって望ましい県立高校のあり方について「県立高校あり方検討会」(松田夏夫会長)を設置しました。検討会は、PTA・小中学校校長・学識経験者・市教育委員長など15人で構成、3月まで4回の検討会を開催し、3月27日に山下市長へ検討結果報告を提出しました(写真)。

検討会の結果をお知らせします。



江津工業高等学校

所在地:江津町1477

開校:昭和9年

設置科:建築科、機械科、総合電気科

生徒数:220人

校訓:「質実剛健」「不撓不屈」

江津高等学校

所在地:都野津町293

開校:昭和33年

設置科:普通科

生徒数:221人

校訓:「思慮高邁 貫徹」



両校とも定員に達していない状況

3年平均の充足率は、江津高校が62.8%(75人)、江津工業高校は71.1%(85人)にとどまっています。中学校の卒業予定者は減少傾向にある一方で、この3年間の市内中学生の進路で、約40%が浜田市など他市町の高校に進学していることが要因と考えられます。

ること、部員が少ない、部活動の数が少なくなるので、良い成績が出にくくなる、成績上位者の流出が進む可能性もあります。

統合した場合のメリットは、教員数が増えることにより多様な授業選択が可能になり様々な進路希望に対応できる、生徒間の交友関係が広がる、部員数が増加し部活動の活性化・成績向上が期待される、ということが考えられます。

デメリットとしては、専門性が薄まらないように配慮しなければ、学校の特徴があいまいになり、他の高校へ流れる可能性があることです。PTAや卒業生会の統合といった問題や地域の理解の課題など、学校を取り巻く課題が新たに発生することが考えられます。

これまで、県内で普通科高校と工業高校が統合した例はなく、様々な問題発生の懸念があります。

あなたの意見をお寄せください 受け付けは終了しました

「県立高校のあり方について私はこう思う」

この記事をご覧のうえ、5月29日(金)までに、ご意見をお寄せください。特に様式はありませんが、ご意見、お名前、ご住所、電話番号を記入してください。

※ご意見について、不明な点がある場合、内容を確認させていただくことがありますので、お名前などのご記入もお願いいたします。

〒695-8501 江津市江津町 1525

江津市総務課 県立高校あり方検討会事務局

今後生徒数減少が進む中、その適正規模を確保し、市内生徒が自宅から通学できる幅広い教育科目・教育環境を確保するためには、江津市内の2校の県立高校の統廃合は、避けて通れないことは理解する。

仮に2校が統合する場合、適正規模、学力の向上、部活の活性化、進路選択の多様性など統合メリットが数多くある一方で、専門学科系の「江津工業高校」と、普通科系の「江津高校」がひとつになると、それぞれの個性が薄まり、魅力・活力ともに減退する懸念がある。また、県内にこのように性格の異なる2校の統合例がないことも不安要素のひとつである。

地域の高校の衰退は、地域経済へも大きな影響を及ぼすと考えられるため、統合によるデメリットの発生はどうしても避けなければならない。

再編成基本計画では「高校再編の個別具体の計画については逐次策定」し、「地域と十分に意見交換しながら進める」ことになっており、現在のところ、江津工業高校と江津高校の統廃合計画は示されていない。

今後、個別具体の計画を策定される前に、懸念・不安のある問題について慎重に分析・検討され、地域と十分な意見交換をしながら、その解決の方向を示したうえで計画を策定されるよう、また、計画策定の際には、教育効果が最大の個別具体の計画となるよう県教育委員会へ要請されたい。

そのほか、再編成基本計画について、策定・スタートからすでに6年が経過し、一層過疎化と少子化が進む中、最近の国・県の地方創生・定住促進といった大きな流れに逆行しないよう、柔軟に見直しをしていただきたいといった意見があったことも申し添える。

最後に、今回の県立高校あり方検討会で検討された内容が江津市民で共有できるようパブリックコメントを求めるなどその周知方法等について検討されたい。

以上

※江津市ホームページより転記。

※赤書きは建築士会事務局にて着色。

統廃合の対象となる可能性も

「島根県県立高校再編制基本計画」の県立高校の統廃合規準は、

- ① 通科を設置する1学年2学級の高校については、入学者数が入学定員の5分の3を2年連続下回ることが見込まれる場合には、引き続き存続させるか、近隣の高校と統合するかを適当な時期に検討する。
- ② ②専門高校や総合学科を設置する高校が1学年2学級となったり、2学級となることが見込まれる場合には、原則として、近隣の高校と支障のない形での統合を検討する。

となっています。

今後の入学者数の動向によっては、市内の両校とも統廃合校の対象となる可能性があります。

市内の県立高校2校の定員充足状況

| 学校名 | | H24 | H25 | H26 | 3年平均 |
|-----|-----|------|------|------|------|
| 江津 | 定員 | 120 | 120 | 120 | 120 |
| | 入学者 | 72 | 72 | 82 | 75 |
| | 充足率 | 60.0 | 60.0 | 68.3 | 62.8 |
| 江津工 | 定員 | 120 | 120 | 120 | 120 |
| | 入学者 | 94 | 80 | 82 | 85 |
| | 充足率 | 78.3 | 66.7 | 68.3 | 71.1 |

中学校の卒業予定者数

| 卒業年 | H27 | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 | H34 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 現学年 | 高1 | 中3 | 中2 | 中1 | 小6 | 小5 | 小3 | 小2 |
| 人数 | 205 | 221 | 197 | 220 | 205 | 177 | 188 | 200 |

市内の中学生の進路

| 市町 | | H24 | H25 | H26 |
|----------|---------|------|------|------|
| 市内校 | 江津 | 60 | 53 | 67 |
| | 江津工 | 43 | 39 | 32 |
| | 石見智翠館 | 37 | 37 | 41 |
| | キリスト教愛真 | 0 | 1 | 0 |
| | 計 | 140 | 130 | 140 |
| 市外校 | 浜田市 | 33 | 40 | 34 |
| | 川本町 | 12 | 11 | 18 |
| | 上記以外 | 41 | 37 | 28 |
| | 計 | 86 | 88 | 80 |
| 市内校への進学率 | | 61.9 | 59.6 | 63.6 |

単独・統合のメリットとデメリット

両校単独であると、メリットとしては、生徒一人一人に目が届く、学校行事が臨機応変にできる、普通科と工業科とが明確である、といったことが挙げられます。逆に、デメリットとして、専門授業の十分な教員配置ができなくなるので、生徒の進路が狭ま